

令和 6 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	82	学 校 名	静岡県立浜北西高等学校	記 載 者	副校長 小室 桜子
------	----	-------	-------------	-------	-----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	確かな学力の 育成	・「授業に意欲的に取り組んでいる」と答える生徒 85%以上 ・「授業に満足している」と答える生徒 80%以上 ・「毎日家庭学習に取り組んでいる」と答える生徒 70%以上	B	B	授業に真摯に向かい合う態度が感じ取られた。 生徒も教師も集中して授業が進められていた。さらに、先生による資料の提示やグループワーク等工夫がなされ、生徒の学びの意欲が長続きできるような手立てがなされていて感心した。先生方の事前準備の周到ぶりが窺えた。 先生方の授業のやりかたに工夫がみられる。生徒も真面目に授業に取り組んでいる様子がある。 生徒と対話した際、疑問点などを当方に伝わるように説明する能力が優れ、探求する気持ちは大きく、授業等に対する不満もない。 アの取組目標「確かな学力の育成」に必要なものは「授業への意欲」と「満足できる授業の提供」の高いバランスによる効果的なインプットと、「反復の家庭学習」による定着である。これを促進する要因として「進路への明確な思い」があり、学力育成の基礎要因として「読書」の効用は少なくない。 以上より、課題は「復習をして学習内容の定着に努めている」生徒が極めて少なく、「進路実現のための努力をしている」生徒がやや少ないこと。探究教育がクローズアップされることで基礎学習が相対的に軽視されるということはないと思うが、「進路実現のための努力」として基礎学力は重要という指摘もある。なぜ学ぶのかという内発的動因を的確に刺激する方策を引き続き検討・実践してほしい。 家庭学習は、その意義や必要性・方法等、生徒一人一人に即した支援・指導が必要と感じる。 家庭学習という位置づけについては、議論があったとおり、今後考察が必要。場合によっては放課後補習を私学高校のように外部の学習塾との提携なども取り入れるなど、生徒および保護者目線での効率化に取り組めば、学校選択の際の大きな武器にできると考える。 学びの習慣の定着については、まだ伸び代がある。
		・「進路実現のための努力をしている」と答える生徒 80%以上 ・新しい大学入試に対応した指導の実施（授業・検定・進路課外等） ・進路課外等の計画的実施	A		
		・月末読書量統計をとり、読書の推進を図る。 ・年間 7 冊（11 月末 6 冊）以上の生徒 80%以上	B		
		・（観点別評価）学校として、教科としての統一を図る。	A		

					家庭学習の定義がはっきりしていない。5教科を学ぶことか、自己実現に向けてか？自己実現に向けて学ぶことも家庭学習として定義づけてほしい。 ゲーム感覚で記録が残るような学べるシステムがHPにあると面白い。ロータリークラブにはラーニングセンターがある。 色々な入試方法があり、昔の国立一期校、2期校、公立校、私立校という単純な制度ではなく、複雑な制度を理解し、生徒に適切な進路指導を行っている。早期の試験にチャレンジし生徒に多くのチャンスを紹介している。 進路指導は、大学入試の多様化が激しく、十分に対応できているのか不安がある。特に私学入試は11月入試もあり、志望校に早めの対応をすれば実力以上の大学への入学も可能なのもっと積極的に情報入手や研究をすべき。 読書への取り組みは、ビブリオバトルや近隣書店とのコラボなど、本をもっと近しいものにする取り組みをしたらどうか。 オーディオブックも読書したと認めてほしい。見えない障害としてディスレキシアがあるから全員が公平に学べるようにしてほしい。
	教員の授業力向上	・チャレンジ授業一人年間1回以上、授業見学（他教科も含め）2回以上 ・Find アクティブラーナー視聴回数増加、研修の実施	B	A	参観した授業では、課題把握のためのプレゼンやグループワーク等の先生方の意図や事前準備等の工夫が十分感じ取ることができた。 ICTや能動的な授業の工夫など授業力向上の努力が見てとれた。 先生が授業を教科書に書かれた内容だけを教えるのではなく、非常に迫力のある授業を行っていた。英語の授業のLL教室でALTを囲んで生きた英語の授業を行っていた。生徒が意欲的に授業に取り組んでいた。 若手教員のICTの取り組みは他校と比較して相対的に評価できる。ベテランの先生方にはその経験を上手く活かしていただきたい。 教員の皆さんは授業力向上に努力されているが、それぞれの知恵や知見を共有し、積極的な省力化や生産的な相互刺激となれば良い。

イ	「時を守り、場を清め、礼を正す」指導と規範意識の醸成	・各学年初期・中期指導 6 時間以上 ・学年集会の開催年間 8 回以上、集会時の遅刻 0% ・時間を管理し、4 点固定の中の家庭学習の開始時間を守ることができたと答える生徒 80%以上	B	B	校舎内外とも十分に整備され、いつ訪問しても気持ちが良い。特に、駐輪場はいつも感心する。 正門・玄関・廊下・階段の踊り場等に何らかの潤い（その場で会話がはずみ、笑顔が出るようなもの）があるとよい。 生徒の挨拶は、笑顔で大変良い。 礼儀正しい挨拶や立ち止まっただの笑顔の挨拶など、気持ちが伝わる生徒さんの姿勢を感じる。 登下校時の生徒によく合うが、自転車通学の生徒たちは交通ルールを守っており、常日頃の指導が行き届いていると思う。 「時を守り、場を清め、礼を正す」という規範意識の醸成を掲げる上で、評価項目がこれでいいのか疑問がある。この規範意識の必要性や実践について、生徒自身に繰り返し問う手法がさまざまあるが、それを自ら考えさせていくことが、自己修練にもなり、また自己分析と自己目標の設定につながるのではないかと。交通マナーの意識向上などについても、人に強制されるのではなく自ら考えて実践させる導きが必要ではないか。 家庭学習に関する時間管理について指導の工夫が求められる。 手帳の活用は手段であり目的ではない。時間管理の定着という目的の必要性を自分事として理解したうえで、効果的な手段として納得させることが不可欠ではないか。丁寧な対応を図るには時間をはじめ様々なコストが生じるため、どのレベルで取り組むか判断する必要がある。 自転車に乗ると周りが見えなくなる時があるのではないかと。交通事故、命の大事さなどを考える時間、話し合いが必要ではないか。 交通ルール・マナーは、個人の安全意識とともに浜北西高生としての矜持を育む観点など効果的なアプローチを検討してほしい。
		・整備委員会の活動年間 5 回以上 ・清掃用具点検年間 3 回以上	A		
		・「自らすすんで挨拶ができる」「交通ルール・マナーを守る」と答える生徒 90%以上	B		

ウ	体系的・探究的なキャリア教育の実施	・「進路指導を含めたキャリア教育（総合的な探究の時間）が充実している」と答える生徒 90%以上	B	A	学びの新しい視点（総合的な探究の時間）で、生徒の自己啓発の場になっていると感じる。 高大連携や卒業生を中心にした外部講師の招聘、地域の企業・施設での実践など評価できる。 本年度の探究学習の様子から、将来に繋がるキャリア教育に力を入れていることが見て取れた。 客観的に積極的な取り組みと成果が認められるが、満足することなく次につなげていく姿勢が良い。 探求の時間で生徒と接し、生徒達が、今後海外で活躍したいという明確な考えを持っていることに感心した。生徒は学ぶ目的をもって学校生活を送っていると感じた。 欲をいえば、生徒が小さくまとまりがちなので、もっとやれるという野心を植え付けることが、浜北西高の生徒には必要だと感じる。 社会環境に合わせたアップデートや地域資源の有効活用という観点でさらに充実させていってほしい。具体的には難しいが、進路先に満足していない生徒へのフォローや要因分析も考えられる。
		・卒業前アンケートで「決定した進路先に満足している」と答える生徒 90%以上	A		

エ	国際理解教育の推進	・相互のプレゼンテーションを3回以上実施する。 ・浜北国際交流協会等との連携	A	A	自分とは違う異質な人物との交流は、若い高校生にとって良い刺激なので今後も推進してほしい。 留学生とのコミュニケーションがよい雰囲気だとれており素晴らしい。 国際理解教育は実績も素晴らしい、対外的にアピール力のある特色のひとつである。 浜北国際交流協会との連携により、生きた実践が行われている。 コロナで4年中断していたタイ国よりの短期留学が再開され、槇の葉祭でのタイ国教室に多くの生徒が訪れ、英語での交流ができていた。多くの生徒がタイ国に興味を持ち、最初に意思の疎通ができることが大事だと理解したと思う。 今は様々なITツールでつながれる時代。ITツールのさらなる活用を。 浜松は全国有数の多文化共生都市なので、インドなどリアルな交流のチャンスをもっと増やすべき。 アメリカの大統領も変わり、世界情勢の変化が予想されるので、国際について学ぶ必要はますます高まるのではないかな。 与えられた国際交流で終わることなく、各生徒の中で国際理解の意識が育まれると良いと思う。
		・オンラインでの交流3回以上実施	A		

様式第 5 号

オ	大学や企業・地域・保護者等との連携や協働活動、貢献活動、広報活動（探究の時間を含む）	・ 県大会出場 10 部活以上 ・ 1 部活 1 地域交流活動（地域貢献活動・協働・連携等）の実施 ・ 校内への普及体制（窓口）の確立	A	A	吹奏楽部がフラワーパークで地域交流の活動を行っていた。多くの地域住民の方が熱心に見学をしていた。またキタニシカのマスコットに人気が集まっていた。 部活動については不満がある。また保護者や地域からも不満の声を聞く。これは、せっかく恵まれた環境にありながら、学校としての取り組みの甘さ、本気度の不足が原因と感じる。かつてできていたことがいまできていないということはいいいわけができない。もっと指導者の外部招聘や若手の育成などについて、教育委員会と十分話し合って拡充につとめるべき。「部活動の目玉」がないのでは、中堅公立校としては存亡に関わることである。かつて強豪であった、野球、柔道、弓道、女子バレー、テニス、吹奏楽など、「浜北西の部活に入りたいから」という選択をしてもらわないと。ここが改善されねば、せっかく校地が広く恵まれた環境なので、できなければ今後の施設改善や人気度にも関わるので、統廃合の対象になるのではと感じる。現在の取り組みに大いに不満。 防災教育は、もっと地域特性や高校生が戦力としてできることなどを掘り下げて研究すべき。 コロナ前まで、浜北西高は PTA 活動、後援会活動が盛んであったが、いまそれが失われている。これも大いに不満。せっかく長年培ってきた風土と活力をむぎむぎ使わないのは残念至極。 探究はとても素晴らしい。学生がじっくり取り組み、先生方や私たちも助言できる体制も欲しい。 探求授業などは高く評価したい。 キャリア教育も定評がある。 生徒との交流で感じたのは、意欲である。生徒達は明らかに何かのきっかけがあれば、自ら求める先に探究の道に進むことができるのではという明るい希望を持てた。 探究の時間は、スパンの長いねらいがあると思っている。従って、探究の時間を 1 年間やったから何かの力がついたとは早計に結論づけられない。
		・ 各委員会の開催年 5 回以上 ・ 生徒による具体的活動の実施	A		
		・ 連携した防災教育の機会 2 回以上、地域防災リーダー育成と防災訓練の見直し ・ 保護者・地域の方の来校者の増加	A		
		・ 連携したキャリア教育の機会 3 回以上	A		
		・ 連携又は協働した安全教育の機会 1 回以上	A		
		・ 探究検討委員会を毎月開催 ・ 3 年生の進路を意識した探究活動の構築 ・ 3 年間の流れを検証・修正していく。	B		
		・ HP 更新月 4 回以上、学校便り（あらたまだより）等の作成や SNS の利用で広報活動を充実させる。 ・ 中学生向け学校紹介動画をリニューアルする。	A		

様式第 5 号

					ホームページも頻回に更新されている様子で、今の音楽や、動画もとりにいれて明るく見やすい。ますますの情報発信を期待する。 SNSによる発信など含め、地域社会など外部との連携を取りながら積極的に活動を行っている。 SNSの活用は改善が進んでいるが、保護者アンケートの評価はまだ十分ではない。ただ、前年比較では向上しているので、引き続き充実を図ってほしい。 部活動はもっとSNSで、どのようなカリキュラムと理念で活動しているかを発信すれば、優秀な人材を引き入れられる。大半の中学生が部活動ベースで選ぶので、学校のためになる。
--	--	--	--	--	---

力	業務改善の推進	各学年・分掌、運営委員会等で意見の集約を図る。	A	A	日常では見えない、見えにくい条件整備も良い学校の大切な要素だと思う。 DXによる業務改善がなされている点が高く評価できる。 本年度の目標であった校務のDXが非常によく推進されていた。 自分自身の体験を踏まえて、DXやAIの活用効果は非常に大きいと感じている。特に、職場で採用しているAIで、文書の要点整理や調査の分析などが効率的に実施できている。それぞれの環境や用途があるので一概に言えないが、課題と手段がうまく合致すれば大きな可能性が広がると思う。 学校事務や技能員の仕事や頑張りを生徒にはもちろんのこと、保護者や地域の人々にも知ってもらう必要があるかと思う。 先生方の情報把握があまりできていないため、評価がしにくい。計画的な業務計画の推進は責任者は誰がおこなっておられるのか、また学校運営予算運用は委員会などがあるのか、その決定はとりきめがあるのかなどは訊きたい。
		- 部活動計画表の作成(年間及び月間)、提出 - 各部活動、年間 80 日以上の休養日の設定を心掛ける。	B		
		学校メールや Google カレンダーを積極的に活用し、校務の DX を推進する。	A		
		- 計画的な業務計画の推進 - 学校経営予算運用の効率化 - 業務分担の明確化	A		